

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	I	児童は教育目標に向かっているか
目標(評価規準)		・学校生活の中で、児童は「自立」し、向上心をもって「生きる力」を育む事ができる。 ・児童は、社会や他者に貢献することで、「自立」し、「生きる力」を育む事ができる。 ・児童は、楽しく学校生活を送ることができる。
重点に係る現状 設定理由		○本校教育目標「自立・貢献」の具現化を図るために、児童並びに教職員がその意義を捉えながら一定の成果を積み上げてきた。児童が自立・貢献するために必要な学力の向上、人権意識の高揚をさらにはかっていく必要がある。日々の授業や50周年記念事業等の学校行事を通して、自己と他者の関係づくりを意識した教育活動を積極的に行い、自己肯定感・自己有用感の向上を目指していきたい。

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	○「学校教育目標・学年目標等を日々の教育活動に生かしている」「職員のプロ意識のもと、教育活動がなされている」「学校行事を工夫・改善がされている」という設問に対する回答が、100%肯定的な回答であった。
各アンケート等の結果	<保護者アンケート結果> ○保護者の児童の様子に対する評価、学校の児童への働きかけに対する評価について、概ね、良好な評価であり、全ての設問で、肯定的な回答は90%を超えている。「学校は、家庭との連絡や相談を充実させ、連携しようとしている」の設問に対して肯定的な回答は、91.6%と昨年より5%以上高くなった。
自己評価結果 (見解と改善方策)	○昨年度から継続して、話し合い活動や校外学習等、児童が人と関わり、自分たちで課題解決する学習を積極的に行った。また、専門性の高い外部講師を招聘して学ぶ機会も設定した。これらの活動を通して、児童が課題に対して興味関心を高め、主体的に学習や活動に取り組む場面が増えた。  ○50周年記念の最初の行事として位置づけた「運動会」では、高学年が主体的に準備や当日の運営をするとともに、リーダーシップをとって、学年や全校で運動会を成功させようとする意識が見られた。また、工夫を凝らした各種目、4年ぶりに再開した全校種目を通して、全学年の児童がモチベーションを高くもって取組み、達成感を共有することができた。今後も、児童が自信をもって行動できるよう、自己肯定感を高めていくことを大切に教育活動を展開したい。  ○50周年記念イベントでは、1つのテーマのもと、6年児童が全体を支え、リーダーシップをとりながら、全校の一体感のある発表ができた。全校が体育館に集まり、練習を重ね、高学年の発表や参観の姿勢を見たことは、よい学びの場となった。昨年度よりさらに、異学年が交流したり、互いの発表を見合ったりする場が増えたことで、「仲間意識」が醸成されたことがわかった。これからも、学校全体が一体となって「仲間意識」が醸成される中で、「貢献する心」を育てていきたい。  ○今後も、児童が主体的に活動できる行事や、互いの発表を見合う機会をつくっていきたい。
学校関係者評価結果	50周年記念イベントや6年生を送る会では、児童がいきいきと発表していることはもとより、他学年の発表をしっかりと見ていたり、一緒に歌ったりして、互いが認め合い、支え合っている様子が見られた。憧れをもったり、自分の成長を感じたりすることができるので、全校が一同に介して、行事を行うことの成果は大きいという意見をいただいた。
最終改善方策	自己評価結果(見解と改善方策)と同様。

## 本年度の重点に対する評価

本年度の重点	2	教職員は、児童の健やかな成長のために自らを高め、貢献することができたか。
目標(評価規準)		・児童一人ひとりが、安心して楽しく活動ができる学級・学年・学校を確立する。 ・明るく元気な挨拶や優しい言葉の掛け合い、自己肯定感・自己有用感を高め、他者を思いやることのできる学級・学年・学校を確立する。
重点に係る現状 設定理由		○教職員が、まず、一人ひとりの児童をしっかり理解し、実態を踏まえた上で授業や学級づくりを進めていくことは常に肝要である。そのためには児童の実態把握、児童指導、授業等、教職員としての資質・能力を高めていかなければならないと考える。また、児童の自己肯定感を高めるために、日々、教職員が人権感覚を磨き、すべての人の人権が尊重された学校づくりをしていきたい。教職員が授業や児童に関わる時間を保障できるよう、引き続き、働き方改革も推進していきたい。

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	○「上宮田小学校は、服務規律遵守、事故防止への意識が高い」という設問に対して、100%肯定する回答が得られた。自らを律しながら教育活動に向き合っていることがうかがえる。 ○「職員のプロ意識のもと、教育活動がなされている」「すべての人を尊重した、学校づくりをしている」という設問に対する回答は評価結果が高かった。ここから、職員一人ひとりが、意識を高くもって職務を行おうとしていることが推察できる。
各アンケート等の結果	<保護者アンケート結果> ○「子どものことを理解しようとしている」についての肯定的な回答が約97%、「学校は、自立の礎となる基礎・基本を身につけさせようとして適切な指導をしている」についての肯定的な回答が94%など、概ね良好な評価を得た。教職員の児童に対する働きかけが児童の成長に有効に働いていると解釈できる。
自己評価結果 (見解と改善方策)	○職員アンケート「上宮田小学校は、職員のプロ意識のもと、教育活動がなされている」という設問に対して、高い評価結果になっていることから、職員の、自らを高めていこうという意識が高いことがわかる。 ○「上宮田小学校はすべての人を尊重した学校づくりをしている」という設問に対して、高い評価結果になっている。校長室だよりや人権教育研修を通して、学級づくりや児童指導の留意点等について、職員で共有したことで、職員の人権意識が高まったと感じている。 ○日々の教育活動を充実させたり、50周年記念行事が子どもたちの成長につながるよう意識して取り組んだり、職員が真摯に子どもに向き合う姿が見られた。職員が講師となった校内研修や職員室での会話を通して、経験が豊かな職員が、自らが実践してきたことを伝える姿、経験が浅い職員は、経験が豊かな職員から学ぶ姿を多く見ることができた。 ○切磋琢磨しながら、自らの力を磨き、それをもとに協働して子どもに向き合う職場づくりに引き続き向かいたい。
学校関係者評価結果	全校が一丸となって取り組んだ50周年記念行事や職員が工夫して教育活動を行ったことが、児童の健やかな成長につながっていると評価していただいた。1学級の人数が多いので、工夫して、きめ細かな教育活動をしていく必要があるという意見をいただいた。
最終改善方策	自己評価結果(見解と改善方策)と同様。

## 本年度の重点に対する評価

本年度の重点	3	学校関係者との連携は深化したか
目標(評価規準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の向上心を高めるため、指導場面において外部協力者等の地域の教育力の活用を図る。</li> <li>・児童の安全確保のために地域や保護者と連携した活動の充実を図る。</li> </ul>	
重点に係る現状 設定理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域での体験学習や外部協力者の招聘などを積極的に行い、児童の知的好奇心や向上心を高めていきたい。</li> <li>○登下校を中心とした地域における児童の安心・安全の確保においても貢献いただいている「見守り隊」の方をはじめ、地域や関係機関との連携、相互の理解を深めていきたい。</li> <li>○児童が地域に対する愛着をもったり、50年の歴史を感じたりする中で、地域で生きる一員としての自覚を高めることができるようにしたい。</li> </ul>	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	○「上宮田小学校は、家庭・地域との連携がなされている。」という設問に対して、100%肯定的な回答が得られた。今年度は、授業参観や保護者会の人数制限をなくしたこと、学校へ行く週間や50周年を記念した運動会やイベント等で地域・保護者の方が来校する機会が多かったことで、保護者や地域の方との連携について成果があったことがうかがえる。
各アンケート等の結果	<p>&lt;保護者アンケート結果&gt;</p> <p>○全項目にわたって、肯定的な回答が得られたということから、学校の指導の意図や方策が保護者にも伝わって協力を得られているととらえることができる。「学校は、行事や学校公開、通信等を通して、児童の様子や学校の方針がわかるようにしている」の設問に対して、肯定的な回答は98.3%であった。</p>
自己評価結果 (見解と改善方策)	<p>○授業参観や保護者会、学校へ行く週間等を実施し、学期に1回以上は、保護者が授業や行事を参観できる機会をつくった。また、通知票を年2回配付にしたため、個人面談を年2回に増やした。これらのことにより、保護者が学校の教育活動を理解する機会が増えた。</p> <p>OPTA活動をサポーター制にしたこと、PTA主催の50周年記念イベントを行ったことで、これまでより多くの保護者がPTA活動に参加し、保護者どうし、保護者と教員が関わる機会が増えた。</p> <p>OPTA活動として、絵本の読み聞かせ活動を再開した。本校の保護者だけでなく、地域の方も参加していただき、児童にとって絵本に親しみながら、地域の方と関わる機会となった。</p> <p>○登下校を見守ってくださっている「見守り隊」の方には、従来通りの活動を展開していただいた。児童の安全確保の観点から大変ありがたいことととらえる。昨年度に引き続き、見守り隊の方を紹介する機会をつくり、活動の内容を説明したり、直接御礼を伝えたりすることができた。また、運動会や50周年記念イベントの参観に来ていただき、日常の児童の様子を知っていただくことができた。今後も、連携を図って、児童の安全確保に努めていきたい。</p>
学校関係者評価結果	50周年記念行事をきっかけに、多くの方が来校して下さったことで、コロナ禍で途絶えていた家庭、地域との連携する機会が増え、学校の教育活動についての理解が深まった。その結果、学校と家庭との連携につながっていったという評価をいただいた。
最終改善方策	自己評価結果(見解と改善方策)と同様。